

広尾防災公園 現場だより

第4号

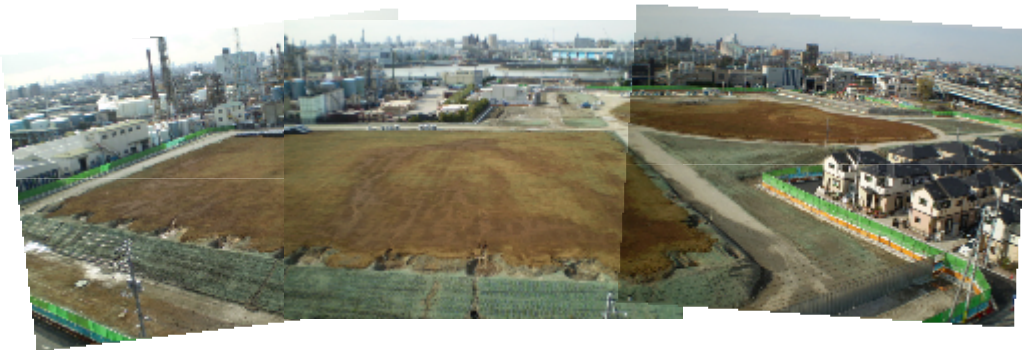
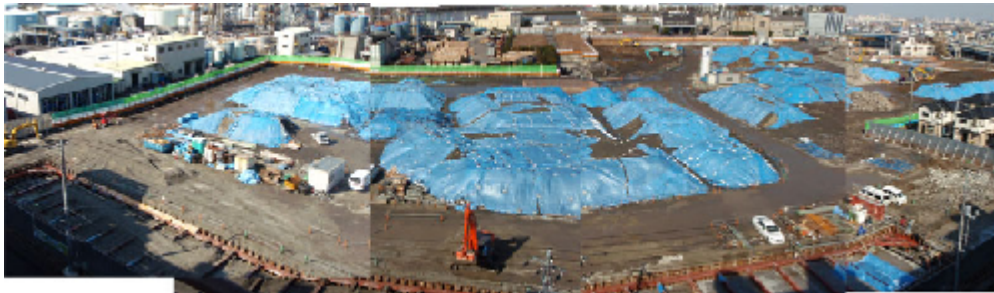
編集・発行 市川市行徳支所地域整備課広尾防災公園担当室 市川市末広1-1-31 (TEL 359-1287)

<http://www.city.ichikawa.lg.jp/gyo07/1112000001.html>

広尾防災公園担当室では平成22年4月の開園を目指して、近隣の皆様のご協力を得ながら工事を進めています。現場は安全面や環境面に配慮して柵を設けているため、普段はなかなか現場の様子が分からないので、この「現場だより」を通じて工事の進捗情報等について皆様にお伝えします。

(平成21年4月10日現在の状況)

広尾防災公園の一年を振り返って



上の写真は、今から約1年前の平成20年2月、未だ土壌汚染対策工事が施工中のものです。下の写真は今年3月のもので、ようやく造成工事が終わり公園のアウトフレームが出来たところです。

非常用トイレを設置しています！

大きな災害が発生し、広尾防災公園が一時避難場所として利用された際に、ある意味最も活用するのが非常用のトイレです。下水道管の一部(約200m)を太くし(何と直径50~70cm)、その上に便槽を取り付けます。万が一、下水道の本管が破断した場合でも、約13,000人が3日間避難出来る容量を確保しており、便槽も和式用60穴、洋式用8穴の計68穴を設置します。



①極太の下水道管

②非常用便槽
(小型マンホール)



③使用イメージ

雨水貯留槽が全て完成しました！

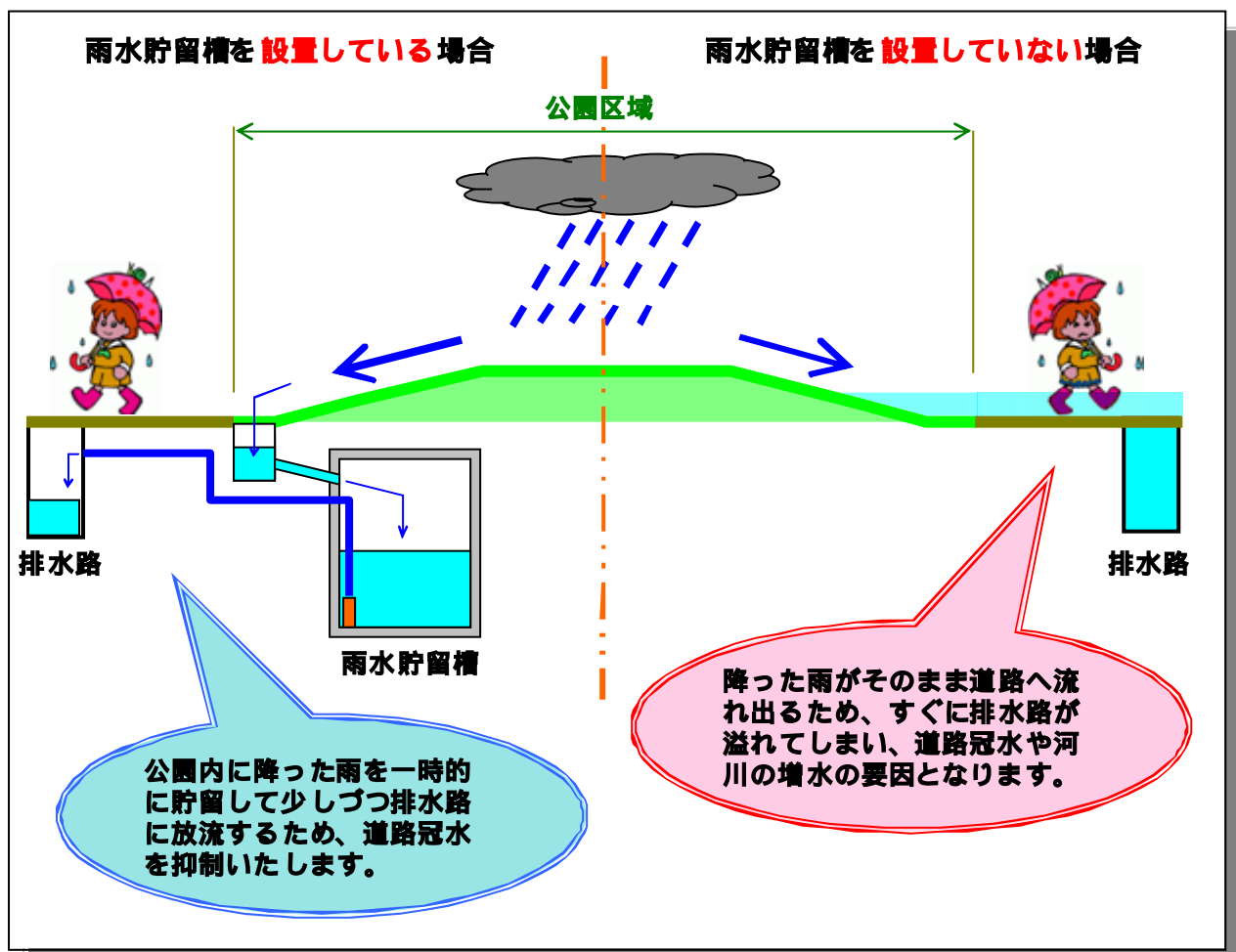
平成19年3月から整備してきた雨水貯留槽も、平成20年度をもって3基全てが完成いたしました。

雨水貯留槽は都市型水害に対応するため、広大な公園内に降った雨水を一時的に地下に貯留し、ゆっくりと放流することで、水路が溢れないようにするものです。

もし広大な公園に降った大量の雨水が、そのまま道路に流れ出たらどうなるでしょう？ U字溝や水路はすぐに溢れてしまい、道路が冠水して皆様の生活に支障をきたしてしまう可能性があります。

広尾防災公園は、広大な園内に降った大量の雨水を、効率的に排水・貯留するために地下式の雨水貯留槽を3箇所に分けて設置しています。その貯留量は約4,600立方メートルで、一般的な25mプール12個分も水を溜めることができ、これにより市街地の水害を抑制します。

防災公園は、地震時だけでなく台風等にも頼りになる施設でなければなりません。そんな雨水貯留槽は、地下施設なので、開園した際にはマンホールやグレーチングしか見えない、影の功労者です。



これが、施工途中の雨水貯留槽の内部です。

下に見える線は、底部の鉄筋です。

上は蓋をしていないので、空が見えていますが、今は閉ざされた雨水だけの空間です…

長さは約80m近くもあるので、幼稚園の運動会が出来る程度の大きさです。

この空間が大雨でいっぱいにならない事を願います。

掲載ネタを募集しています。興味のある事項についてお気軽にご連絡下さい。